

道徳科 学習指導案

平成30年11月5日（月） 第5校時（4の1教室） 4年1組 指導者

I 主 題 相手の思いは？

II 考 察

1 主題観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについての理解

②思考力・判断力・表現力等

自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることについての自己の考え

③学びに向かう力・人間性等

自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をしようとする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 主として人との関わりに関すること

11 相互理解，寛容〔第3学年及び第4学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「相互理解，寛容」の内容項目のうち、自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることとは、相手の考えが自分の考えとは異なる際に、相手の考えの理由を理解した上で自分の考えを丁寧に伝えたり、相手の考えを頭ごなしに否定せずに聞き、相手に理解を示したりすることである。自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることにより、相手は自分の考えを受け入れてもらえるという安心感をもって、進んで自分の考えを伝えようとする。また、相手の考えを受け入れた言動は、相手自身の自分と異なる考えを受け入れようとする気持ちを高めることにもなる。そのため、お互いが自分の考えを安心して伝え合うことができる関係を築くことができる。そして、このような人間関係を構築していくことにより、前向きで建設的な話し合いをすることが可能となり、よりよい考えを生み出すことにつながっていく。

子どもたちは、普段の授業や生活の中で積極的に自分の考えを発言しており、その中で友達が自分とは異なる考えをすることがあることに気付いている。しかし、自分が考えを伝えた後、相手から異なる考えを伝えられた場合、自分の考えを否定されたと感じて自分の考えの正当性を一方的に主張したり、相手の考えの理由を聞かずに相手の考えを受け入れられなかったりすることがある。このような子どもたちが、相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについて考えることにより、実践への意欲を高めることにつながる。

そこで、教材「学級新聞作り」を使用する。教材の内容及び価値は、以下のとおりである。

主人公は新聞系のリーダーとして活動している。学級新聞の記事を作る際に、話し合いで決まったことは変えるときにも話し合いをすべきと考える主人公と、よいと思う考えはすぐに改善したいと考え、話し合いで決まったことを守ろうとしない黒羽さんが言い争いをする。その後、主人公は、自分の意見を押し通そうとしたことが気になり、心が晴れない、という内容である。

自分の意見を押し通そうとしたことが気になる主人公の姿から、子どもたちは相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについての問題意識を高めることができる。また、主人公のとるべき行動とその行動をとった時の主人公や黒羽さんの気持ちに着目することは、相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについての理解を深めることにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、5年「仲間を信じて」での、自分と異なる意見をもつ友達のことを理解し、信じることの大切さについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、3年「なかまの気持ち」において、仲間の気持ちを理解して行動することの大切さについて考える学習をしてきた。この学習で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 仲間の気持ちを理解することで、楽しく過ごすことができることを理解してきている。このような子どもたちが、相手の考えを受け入れた言動をすることで、お互いが自分の考えを安心して伝え合いながらよりよい考えを生み出していくことができることを理解できるように、主人公の心が晴れるための行為を問う学習課題を設定する。
- ② 仲間の気持ちを理解して行動することについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができるようになってきている。このような子どもたちが、相手の考えを受け入れた言動をすることについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、学習課題についての考えを発表した後に、考えの共通点を話し合う時間を設定する。
- ③ 仲間の気持ちを理解して行動しようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、相手の考えを受け入れた言動をとろうとする態度を養えるように、今までの生活の振り返りとこれからの生活の見通しを記述する学習プリントを用意する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 主人公の心が晴れるための行為について話し合うことを通して、お互いに相手の考えを受け入れながら前向きな話し合いができるように、自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をとろうとする態度を養う。
- 2 準備 場面絵 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
-------------	---------

1 教材を読み、学習課題「主人公の心が晴れるには、どうしたらよいのだろう」をつかむ。

- ・休み時間に友達と何で遊ぶかで意見が合わなかったことがあったな。
- ・黒羽さんと話している時に、主人公は自分の思いをおし通そうして心が晴れなかったのだな。
- ・主人公の心が晴れるにはどうしたらよいのかな。

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・今回の新聞は「インタビューをしてもしなくてもよい」にしたなら、黒羽さんの意見を取り入れることができるから心が晴れるのではないかな。
- ・「もう一度係のみんなで話し合う」ことがいいと思うな。だって、主人公は黒羽さんの考えはいいと思っていたのだけど、自分の考えを押し通したことを後悔していたからだよ。
- ・どの考えも黒羽さんの考えを無視しないで聞いているし、主人公も自分の考えを黒羽さんに伝えられているね。
- ・黒羽さんは、私の考えを聞いてくれてありがたうと思っているのではないかな。無理を言ってごめんとも考えている気がするな。主人公の行動は、どれも黒羽さんのことを考えていたし、自分の考えも伝えていたからよかったと思うよ。
- ・考えが違って、相手の考えを聞いて、自分の考えも優しく伝えられるといいと思うな。だって、相手の思いを聞けば、優しくできて、仲良くよりよいものを作っていけるからね。

3 これからの自己の生き方への思いや課題について考える。

- ・相手が自分と違う意見だったときにも、その意見にした相手の思いを考えて行動してよりよい関係を作っていきたいな。

○本時にねらいとする道徳的価値への方向付けができるように、他人と意見が合わなかった経験を問いかける。

○教材「学級新聞作り」の内容を把握できるように、教材の範読の後、登場人物の行為や場面の様子を問いかける。

○自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をとることの大切さについての問題意識を高められるように、心が晴れない主人公についての感想や疑問を発表するよう促す。

○学習課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、考えを発表するよう促す。

○自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることについて多面的・多角的に考えられるように、子どもたちの考えを行為と気持ちに分けて板書する。

○自分と異なる相手の考えを受け入れようとする思いに気付けるように、主人公の心が晴れるための行為の共通点を問いかける。

○自分と異なる相手の考えを受け入れた言動を、お互いがすることの大切さに気付けるように、主人公の心が晴れた時の黒羽さんの気持ちを問いかけ、ペアで話すよう促す。

○自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さを理解できるように、よりよい新聞を作るために必要だと思ったことを問いかける。

評価の視点

相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。

<発言・学習プリント>

○よりよい自己の生き方を実現しようとする思いを明確にできるように、振り返りの視点を提示し、理由を学習プリントに記述するよう促す。

○これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてたことを称賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	主人公の心が晴れるための行為について話し合うことを通して、お互いに相手の考えを受け入れながら前向きな話し合いができるように、自分と異なる相手の考えを受け入れた言動をとろうとする態度を養う。	
教材	学級新聞作り	
主題 構成	導入では、心が晴れない主人公についての感想や疑問を話し合うことで、子どもたちは相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについての問題意識を高めることができる。展開では、主人公のとるべき行動とその行動をとった時の主人公や黒羽さんの気持ちに着目して考えることで、相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さに気付くことができる。	
過程	学習活動	評価の視点<評価方法>
導入	○教材を読み，学習課題「主人公の心が晴れるには，どうしたらよいのだろう」をつかむ。	
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。	◇相手の考えを受け入れた言動をすることの大切さについて，多面的・多角的に考えたことや，自分との関わりで考えたことを，発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント>
終末	○これからの自己の生き方への思いや課題について考える。	
他の 教育 活動 との 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で，自分と異なる意見が出てきた時に，合意形成を図る場面 例：授業の課題の解決に向けて話し合う場面 休み時間の遊びを決める時に話し合う場面 係活動の分担を決める時に話し合う場面 	